

- 1 3 美観からみた建築内装材料の耐久性に関する研究

Study on durability of interior finishing materials from the view point of visual

(研究期間 平成 12 年度～13 年度)

材料研究グループ
Dept. of Building Materials and Components

井戸川 純子
Junko IDOGAWA

The purpose of this study is to grasp the change of finishing from the visual, and to extract and quantify the influence factors for the evaluation of visual impression. After making specimen finished with interior finishing materials, exposure tests were started.

【研究目的及び経過】

昨今の建築物の性能規定化において耐久性能の規定化は未だ整備されていない感があり、早急な対応が望まれる。これまで建築物、建築部位における耐久性は主に材料の物理的、化学的変化と把握されてきたが、材料設計などの実際に供するためには材料が発揮する性能の経時変化つまり性能の耐久性を把握することが重要である。

ここで、仕上げ材の美観はユーザーからのクレームの上位にあげられており、一般ユーザーからは美観が長年に保たれる仕上げ材料に対する要望が高いものの、把握の方法が明確でない。

本研究は経時による美観性能の変化を把握するとともにその影響因子の抽出及び定量化を目的とするものである。本研究により美観の観点から長期間使用できる材料・部材設計のための設計因子が明らかになれば維持保全期間の延長、ひいては建築物の長寿命化に寄与できる。

【研究内容】

本研究は経時による美観性能の変化を把握するとともにその影響因子の抽出及び定量化を目的とし、以下を行う。

各種内装仕上げを施した試験体の作成

で作成した試験体の屋内環境暴露試験の実施

試験体の測定項目の検討

劣化した試験体について、人間の判断を用いて美観の程度付け（尺度化）の可能性の模索および美観の劣化要因の検討

劣化に伴い発生する不具合と陳腐化の判断との関係

【研究成果】

平成 13 年度は および を実施し、69 種の内装仕上げを施した試験体の暴露試験を開始した。暴露試験の実施状況を図に示す。今後、試験体外観の変化を記録すると共に、 ～ の検討を順次行う。

本課題は平成 12 年度から 3 カ年の予定で計画されたが、担当者異動に伴い、途中ではあるが 12 年度で終了した。



図 暴露試験実施状況（左から屋内環境ばくろ棟全景、試験体設置状況、試験体外観）

